

編集委員会からのお知らせ

日本公衆衛生雑誌
編集委員長
上原里程

会員の皆様には、平素より本誌の発行に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が2年以上にわたり流行を繰り返す中、多くの会員の皆様が人々の命を守り、かつ健康保持増進のためこの脅威に立ち向かっていらっしゃることに對し、心より敬意を表します。そのような状況下においても本誌へ論文を投稿くださいますことに、心から感謝申し上げます。

さて、編集委員会は新体制となり2年目の活動に入っています。本稿では、2021年に発刊されました68巻1号から12号までの概況と編集委員会の主な取り組みについてご紹介します。

1. 68巻の概況

掲載数64編で論文種別の内訳は特別論文3編、総説1編、原著39編、公衆衛生活動報告5編、資料13編、会員の声3編でした。67巻からの推移をみますと、原著および公衆衛生活動報告はほぼ同数ですが、資料が増加傾向です。1号あたりの掲載数の範囲は4編から7編でした。なお、2021年1月から12月までの新規投稿数は153編、審査日数（該当月に投稿された新規投稿論文の「投稿から初回審査結果通知まで」の平均日数）30.9日、採用数64編でした。

2. 編集委員会の主な取り組み

編集委員会では、常時メーリングリストで審査を行っています。論文が投稿されますと、原則、一人の編集委員が二人の査読委員とともに審査を行います。査読委員の先生方は審査依頼のほとんどをお引き受けくださいますので、迅速に審査を進めることができます。この場をお借りして査読委員の先生方にお礼申し上げます。

また、メーリングリストによる審査に加え、隔月で編集委員が顔を合わせて議論する場を設けています。審査に関連する課題や優秀論文賞、ベストレビュー賞の選考・選出等について議論しています。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、2021年はすべてオンラインでの会議開催となりました。あらゆる場面で会議のオンライン化が進んだこともあり、この1年間の経験を踏まえてオンライン会議のメリットやデメリットも話題の一つとして挙がっています。

編集委員会の2年目の活動として、会員の皆様にとってさらに投稿しやすい雑誌になるよう、投稿規定の見直しを継続的におこないたいと思っています。昨年実施した規定の主な見直しとして、論文種別の「資料」明記と「著者の資格」の記載がありました。昨今の医学雑誌編集の動向を踏まえながら規定の見直しを検討していきます。

今後も質が高い原著論文や現場での活用が期待できる公衆衛生活動報告など、公衆衛生の発展に寄与できる論文を数多く掲載していきたいと考えています。そのための取り組みを編集委員一同で議論しながら進めていく所存ですので、是非多くの論文をご投稿くださいますよう、引き続きよろしくごお願い申し上げます。